

御前山ビオトープ通信

平成25年7月14日

第42号

発行：御前山ダム環境センター

編集：NPO「美しい田園21」清野

メール：denen21@hb.tp1.jpホームページ：<http://w01.tp1.jp/~a071771011/>

目次

- 1 第二回育成活動を実施 6月25日
- 2 御前山中学校モニタリングに参加 7月1日
- 3 茨城新聞観光特集に「御前山ビオトープ」が掲載

【案内図】



1 第二回育成活動を実施

例年通り夏休み前の恒例作業で、6月25日（火）本年度第二回目の育成活動を行いました。今年はTOTO茨城工場が新しく参加して6月8日（土）にダム周辺の草刈りは終了していることから、ビオトープの管理作業を中心として実施することになりました。

連日の梅雨空でしたが、合間の晴天となり、かなり蒸し暑く気温も上がってきました。

希少植物の生育状況を観察すると、全体的に順調で元気に新芽が育っていました。ちょうどこれから野草との競合状況が始まるタイミングで、草抜きするにはちょうどいい日程設定でした。

今回の参加者は約50人、刈り払い機を使用して土手や畔の草刈り、田んぼの草抜き、林間と湿地とそれぞれ別れて作業を開始しました。

林間のフタバアオイは春には群落がたくましく繁茂して

いましたが、病原菌の影響か一部根腐れしていました。やや密植状態

と判断し、間引きを兼ねて整理しました。アギナシとタコノアシは新芽を間違えて抜いてしまわないように、見分け方の説明を受け作業にかかります。



作業は一時間半程度で完了し、最後に皆で水芭蕉を植栽しました。定着するか判断できないので分散して移植しました。

昼ころはかなり気温が高くなってきましたが、ビオトープは溪流沿いに心地よい風が流れてきます。池にはコウホネ、アサザの黄色い花が、土手にはホタルフクロが咲いてきました。

2 御前山中学校モニタリング調査に参加

7月1日(月)御前山中学校1年生29名と校長先生、担任の先生などが参加し、御前山ビオトープにおいて移植植物のモニタリング勉強会と調査活動を行いました。

子供達は御前山小学校時代に、小学5年生でビオトープ田んぼでの稲作体験、小学6年生でダム周辺整備として山桜などの植栽活動に参加してきており、地元の子供たちとしてビオトープには何度も通いよく知っています。

ただ、今回はモニタリング調査として実践的な調査を行い、記録や整理まで実施しなければなりません。

冒頭、国営那珂川沿岸農業水利事業所から一般的な説明が行われた後、季節的な変化もあるので、ビオトープの現状を一周して現場を確認しました。

その後、3班に分かれて調査を始めました。1班は林間の「イヌショウマ」、2班は水路内の「ナガエミクリ」、3班は湿地の「アギナシ」と分担しました。班内ではさらに記録係、調査係など役割分担して協力し合い、意見交換しながら、生育状況を確認し記録簿に記入・集計します。

調査をしながらカエル、カマキリ、毛虫なども沢山発見して大騒ぎです。

一通り担当植物の調査が終わったところで、全員が「タコノアシ」のエリアに集合し、「コドラート法」によって、詳細調査を実施することにしました。NPO指導員の説明を受けて、全体を2mメッシュ3×8の24区画に分割(ビニール紐)して、区画ごとに株数、土壌水分の状況等を記録簿・スケッチ等により詳細に記録します。数年間データを集めると、タコノアシの快適な生育条件がより明らかにできると思います。

今回の調査は、天候にも恵まれ、1週間前の6月25日にボランティアで選抜草抜きをしておいてくれたお陰で、順調に作業を進めることができました。

区画割してコドラート法調査



3 茨城新聞観光特集に「御前山ビオトープ」が掲載

茨城新聞が発行する「いばらき観光ガイド(夏の観光いばらき)」の6月29日版に「御前山ビオトープ」が紹介されました。本紙は茨城の観光案内として県内外へ幅広く配布されています。実は北海道苫小牧港のターミナルで発見しました。(清野)

15面になんと茨城県内第一の観光名勝「袋田の滝」と並んで掲載されていました。WEB「夏の観光いばらき」<http://ibarakinews.jp>でもご覧になれます。

(15) 第三報 観光特集 2013年6月29日 土曜日

涼感じる水音、しぶき

袋田の滝

大子町

豊前女巻(左)、こたす(右)のふたつあり、高さ100m。四季に異なる水音としぶきの風情は味わい深い。夏の風情は味わい深い。夏の風情は味わい深い。夏の風情は味わい深い。

4階建ての石造りの滝壺。周囲の緑も美しい。ハイキングコースも、森林浴が楽しめる。J.R.常陸大子駅が、徒歩5分。徒歩約10分。休日・お盆期間中は常陸大子駅から無料シャトルバスが運行している。問い合わせは常陸大子市観光協会(0295-22-0200)。

御前山ビオトープ(常陸大子市益山)

ダム水没地の動植物保全

水芭蕉が咲きはじめ、田んぼの雑草が伸び始めている。御前山小学校の子供たちが、水芭蕉の移植作業を行っている。益山の多様な動植物を保全するための取り組み。ビオトープを管理する御前山ダムを管理する常陸大子市環境課が、水芭蕉の移植作業を行っている。御前山ダムを管理する常陸大子市環境課が、水芭蕉の移植作業を行っている。

Look!

御前山小学校の子供たちが、水芭蕉の移植作業を行っている。益山の多様な動植物を保全するための取り組み。ビオトープを管理する御前山ダムを管理する常陸大子市環境課が、水芭蕉の移植作業を行っている。

夏の味覚、刺し身は絶品

アユ釣りの絶頂地1位の那珂川と2位の久慈川が流れる常陸大子市と大子町で、夏の味覚といえばアユ料理だ。定常の塩焼きをはじめ、田楽、フライ、空揚げ、煮飯など多彩な夏のアユグルメ。特に、新鮮な生きたアユからしか調理できない刺し身は絶品。道の駅などの観光施設のほか、飲食店やホテルなどが提供している。夏の風物詩ともいえるのがやなせ。大子町大子の久慈川近くには「奥久慈大子観光やなせ」が営業。自然を感じながら味わえる。問い合わせは常陸大子市観光協会(0295-22-0200)。

味ナレ

大子の味は、まだ残った痕がある。夏の味覚、刺し身は絶品。アユ釣りの絶頂地1位の那珂川と2位の久慈川が流れる常陸大子市と大子町で、夏の味覚といえばアユ料理だ。定常の塩焼きをはじめ、田楽、フライ、空揚げ、煮飯など多彩な夏のアユグルメ。特に、新鮮な生きたアユからしか調理できない刺し身は絶品。道の駅などの観光施設のほか、飲食店やホテルなどが提供している。夏の風物詩ともいえるのがやなせ。大子町大子の久慈川近くには「奥久慈大子観光やなせ」が営業。自然を感じながら味わえる。問い合わせは常陸大子市観光協会(0295-22-0200)。